



曾谷の風

学校教育目標「『ゆめ あすから』チャレンジする子どもたち」

東国分爽風学園
市川市立曾谷小学校
校長 田部井 伸郎

→爽風学園ブログはこちら

→「爽風だより」はこちら

→学校ホームページはこちら

曾谷っ子の合言葉

「元気・本気・勇気」～3つのキを育てよう～



学校運営協議会って何？

「学校運営協議会」とは、子どもたちのよりよい成長のために、学校と地域が目標やビジョンを共有し、一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」を目指す仕組みのことです。

保護者や地域住民の代表の方が協議会委員となり、子どもたちに関する協議や意見交換など、学校の教職員とともに、学校運営を主体的に行っていただきます。

＜学校運営協議会委員の役割＞（市川市）

- 1 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する。
- 2 学校運営について、意見を述べることができる。
- 3 教職員の任用について、意見を述べることができる。
- 4 学校関係者評価を行う。

上の役割を見ると、特に1と3が注目でしょうか。

1については、承認されなければ、校長は学校運営方針を書き直して再提出をします。それも認められなければ、認められるまで再提出は続きますので、委員には強い権限があります。

3は当該学校の教職員の任用についての意見ですから、これも強い権限と言えそうです。

このように強い権限が与えられているのは、地域と学校の連携強化のため、学校の説明責任・透明性の確保のため、地域の力を教育に生かすため、応援者でなく、学校づくりの「当事者」として活躍していただくための、「責任あるパートナーシップの証」です。

さらに、市川市は先進地域で、これまで学校地域の連携に関する文部科学大臣表彰を6度も受賞しています。この「学校運営協議会」そのものについて、またそれが進んでいる地域である、ということを是非ご承知ください。

協議会委員について

地域住民から選出される1号委員、現役の保護者から選出される2号委員、地域学校協働活動推進員（学校と地域をつなげる役割。コーディネーターとも呼ばれる）の3号委員、教育



(文部科学省のホームページより)

経験者から選出される4号委員、当該学校の教職員の5号・6号委員です。本校のように、郵便局長、青少年相談員、放課後子ども教室のスタッフが協議会委員に選出しているのは珍しいケースで、多方面から委員を選出しています。

曾谷小学校の学校運営協議会委員

| No. | 委員区分 | 氏名 | 所属 |
|-----|-------------------------------|---------|-----------------------|
| 1 | 対象学校に係る 地域住民（1号） | 日光三代治 様 | 曾谷第5自治会長 |
| 2 | | 松戸 久代 様 | 曾谷第5自治会副会長 |
| 3 | | 川上 晃一 様 | 曾谷北郵便局長 |
| 4 | | 三澤 聖 様 | 第4地区青少年相談員 |
| 5 | | 中山 勝枝 様 | 曾谷小学校放課後子ども教室スタッフリーダー |
| 6 | 対象学校に係る 保護者（2号） | 油田 洋幸 様 | 曾谷小学校PTA会長 |
| 7 | | 上垣内理恵 様 | 曾谷小学校PTA副会長 |
| 8 | | 石川みどり 様 | 曾谷小学校PTA元副会長 |
| 9 | 対象学校の運営に 資する活動を行う者 (3号) | 花田 昌栄 様 | 地域学校協働活動推進員 |
| 10 | | 石橋 圭子 様 | 地域学校協働活動推進員 |
| 11 | 学識経験を 有する者（4号） | 竹内 英世 様 | 聖徳大学名誉教授 |
| 12 | | 小島 基江 様 | つくし保育園長 |
| 13 | 対象学校の校長（5号） | 田部井伸郎 | 本校校長 |
| 14 | 対象学校の 教職員（6号） | 畠野 和也 | 本校教頭 |
| 15 | | 金子 晃之 | 本校教務主任・地域連携主任) |

第1回学校運営協議会

7日（水）、今年度の第1回学校運営協議会を開催しました（全5回の予定）。

まず学校運営方針の承認が行われました。表面で、「学校運営協議会とは、学校と地域が目標やビジョンを共有し、連携・協働しながら…」と書きましたが、学校運営方針の承認は、そのための重要な協議です。

委員の皆様に方針の承認をいただきましたので、学校教育目標「ゆめあすから」、曾谷っ子の合言葉「元気・本気・勇気」は昨年に引き続き共有し、家庭・学校・地域が一体となり、チームとなって取り組んでまいりたいと思います。

その後、授業参観を行いました。委員の皆様からは様々に励ましの言葉をいただきました。

また、今年度は新たに、「児童に意見を聞く機会」を教頭先生の提案で設けることにしました。そもそもは、学校と地域が一体となって子どもたちを育てるためですので、委員が児童の意見を聞ける貴重な機会としたいです。

